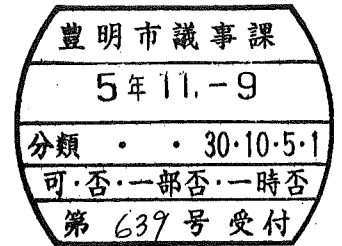


豊明市議会議長 殿



行政等視察報告書

議員名 林 ゆきひろ

令和5年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和5年10月24日	栃木県栃木市	空き家対策について ※本市の空き家の利活用を促進するため、空き家バンクの活用や移住促進など、先進的な事例を学んだ。
10月25日	群馬県桐生市 黒保根学園	小中一貫校について ※今後の小中学校における統廃合にそなえ、小中一貫校の特色的な教育の取り組みを学んだ。 詳細は別紙報告書のとおり

- (注) 別紙添付も可能とします。
- (注) 本報告書は5年間公開します。

市民派の会 会派視察報告書

林 ゆきひろ

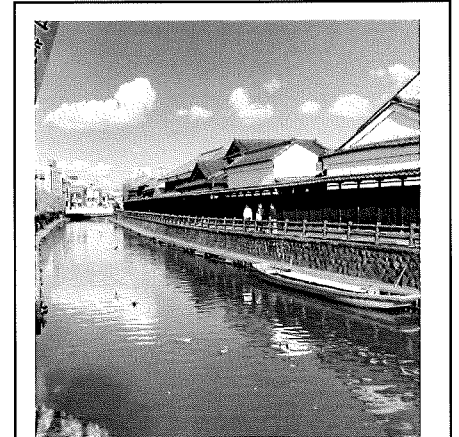
栃木県栃木市 (R5. 10. 24 視察)

「空き家対策について」

1. 市の概要

栃木市は栃木県の最南端に位置し、東京駅からも1時間程度で移動できるため、都内への通勤通学がしやすいまちです。人口は約15万人、面積331.5㎢と、豊明市の2倍の人口であり、面積は15倍近くあります。(豊明市は人口66,249人、面積23.22㎢)

川沿いや、駅から市役所を中心に「栃木市歴史的町並み景観形成地区」に指定されており、蔵造りの家屋が並び、店舗も歴史的な街並みにあわせた色合いの造りをしています。



栃木市の街並み

2. 空き家対策について

栃木市は、持ち家率が全国平均より高く、特に高齢者世帯の持ち家率が高い状態でした。空き家率を見ても、全国平均よりも上昇傾向にあり、今後も高齢化が進むと、さらに空き家が増えていくと考え、空き家対策に取り組んでいました。

(平成30年)	全国	栃木市
持ち家率	61.2%	79.2%
高齢者世帯の持ち家率	76.9%	87.9%



空き家対策の説明

	栃木市		全国	
	平成25年	平成30年	平成25年	平成30年
空き家数	8,250件	9,580件	820万件	846万件
空き家率	13.1%	14.2%	13.5%	13.6%
比較	1,330件増		26万件増	

<栃木市の空き家対策の方針>

① 新たな空き家の発生を抑制する

一般市民向けに「空き家発生予防セミナー」を開催し、空き家の所有者としての責務や税金関係など学ぶ機会を定期的に設けていました。また、各自治会と連携して空き家を早期発見、活用する取り組みも行っていました。空き家の早期発見に取り組む自治会には活動開始初年度に活動資金（10000円＋世帯数×100円）を支給し、現在は67の自治会が協力し、300件を超える空き家が発掘されたとのことでした。

② 空き家のまま維持する場合は、適正に管理してもらう

空き家の適正管理に関する協定を協力団体（シルバー人材センター、NPO法人）と締結し、所有者が遠方で自分では管理が難しいという方の適正管理を行っていました。

③ 使える空き家は活用してもらう

空き家バンクの活用と様々な移住・定住促進施策により、空き家の活用が進んでいました。平成29年より「住みたい田舎ベストランキング」（特に子育て世代や若者世代で高評価）に掲載されたことにより、栃木市の空き家バンクが注目され、成約率が日本一となっています。移住・定住促進支援策としては、「住み替え補助」「空き家バンクリフォーム補助」「調整区域空き家購入補助」「東京通勤者支援」「定住コーディネーター配置」「やどかりの家で移住体験」等の様々な支援策を用意していました。

④ 再利用できない空き家は解体し、敷地を活用してもらう

解体で最大50万円を補助する制度もありました。

3. 視察の所感

栃木市では、行政と地域（自治会）とが連携し、空き家バンクを有効に活用することで、着実に空き家数が減少していました。また、子育て世代や若者世代にとっても高評価である福祉施策をしっかりと行っていた点も、雑誌に掲載され、若い世代に注目されるきっかけとなり、空き家バンクの成約率が日本一で、移住定住に繋がるという結果になっていました。

本市においても、空き家の庭の樹木が通行の妨げになっていたり、ブロック塀が老朽化していたり、防犯上も危ない箇所で困っているとの声も聞きます。今後、高齢化に伴い、さらに空き家が増えてくると考えられます。区画整理などの開発を進めるだけでなく、既存の市街化区域の空き家をいかに活用するか、若い世代が住みたいと思える福祉施策をどう打ち出すかが、本市においても重要になってきます。栃木市の空き家対策は、本市の福祉施策や移住促進の施策としても非常に参考になると感じました。

桐生市立黒保根学園「小中一貫校について」

1. 市の概要

桐生市は関東北部に位置し、人口約10万人、面積274.45km²のまちです。絹織物などの繊維工業が発展し、その他、自動車部品などの機械工業やエネルギー産業も盛んです。黒保根学園がある黒保根地区は、2005年に合併し、桐生市は間に「みどり市」がある飛地になっています。



2. 黒保根学園の小中一貫校について

【黒保根学園 施設概要】

場所： 桐生市立 黒保根学園

(黒保根中学校・黒保根小学校)

(群馬県桐生市黒保根町水沼400番地)

開校： 令和4年4月

小学校児童数： 約 26 名

中学校生徒数： 約 22 名

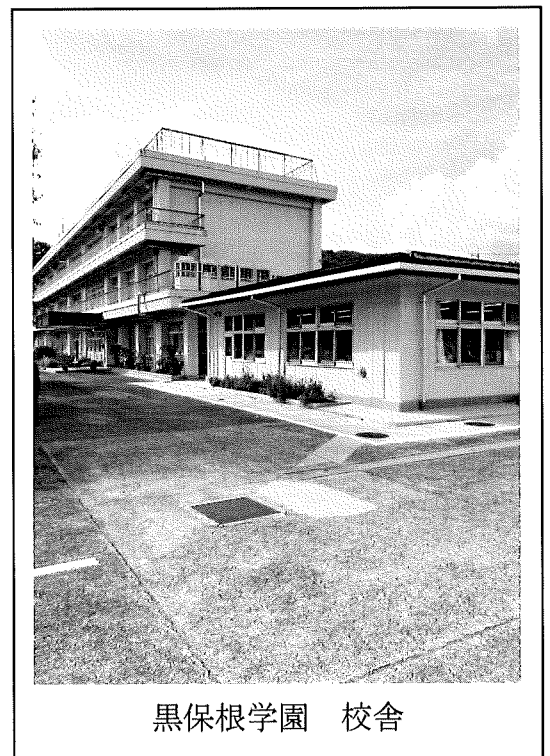
改修費用： 約 2 億円

うち、職員室の増設 約4000万円

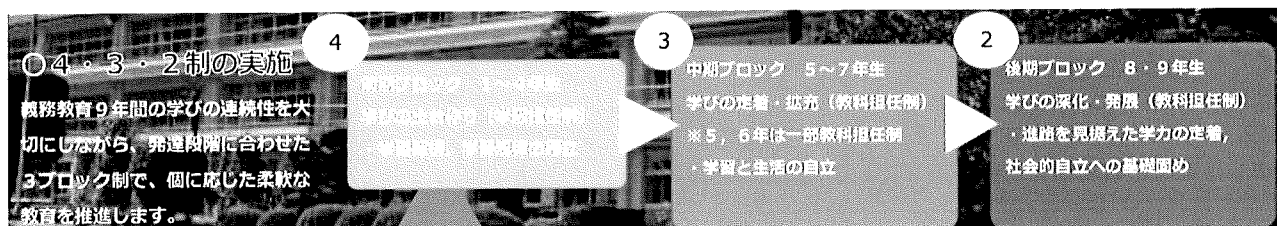
今回は、黒保根学園の学校内を視察し、特徴的な教育プログラムの説明をはじめ、実際に授業を行っている様子なども見学しました。

まず、小学校と中学校の統廃合において、準備段階から資料を教員間で読み込み、同じような環境にある学校（先進校）に多数の視察へ行って学んだとの説明を聞きました。また、その際に、県や市も、学校統廃合に向けた準備段階から、人員の配置を考え、教員の研修の場も多数設けていたことも、スムーズに統廃合できた要因とのことでした。

黒保根学園は、市内で唯一のコミュニティスクールを設置し、地域と連携した地域学習を行っていました。保護者OBや学校を支援したい地域の方々などで構成された学校支援隊は総勢95名おり、様々な学校行事をはじめ、農業体験の支援や、読み聞かせ、生活科や図工、社会科などの体験学習のサポート等を行っていました。また、学校PRとして、当たり前すぎて気付かない黒保根地区の魅力を再発見し、黒保根内外に発信することも行い、桐生市のコミュニティスクールの礎を築いているとのことでした。



学校の教育課程では、4・3・2制を採用し、小学1，2，3，4年生を前期ブロック、小学5，6年生と中学1年生を中期ブロック、中学2，3年生を後期ブロックと3区分に分けて対応。1，2年と5，6年では複式学級を取り入れていました。



(▲黒保根学園パンフレット より)

さらに、小規模特認校として、市内全域から通学を認める制度を活用しており、通学にはスクールバスが運営されていました。小規模学校であるため、不登校児童生徒も黒保根学園なら通学できるという子もいるそうです。

また、黒保根学園について、県外からの問い合わせも増えており、移住を考えている方には相談窓口を設置して対応しているとの説明もありました。

3. 視察の所感

本市においても、今後10年～20年ほどで、三崎小学校、豊明中学校、図書館の一体整備の計画もあります。小中一貫校、小中併設校、校舎分離型の小中一貫教育など、様々な角度で検討する必要があると考えます。今回の黒保根学園は1つのケースとして、非常に興味深い内容でした。

教育分野においては、先進的な教育を取り入れることにより、市外からも転入が増え、人口増となることもあります。様々な先進的な学校統廃合のケースを学びながら、本市にも活かしていく必要があると感じました。